

津波の高さはどう測る？

津波は多くの生命及び財産に甚大な被害を及ぼすため、津波の観測は、津波警報等の迅速な発表や津波予報の精度向上等のために重要です。

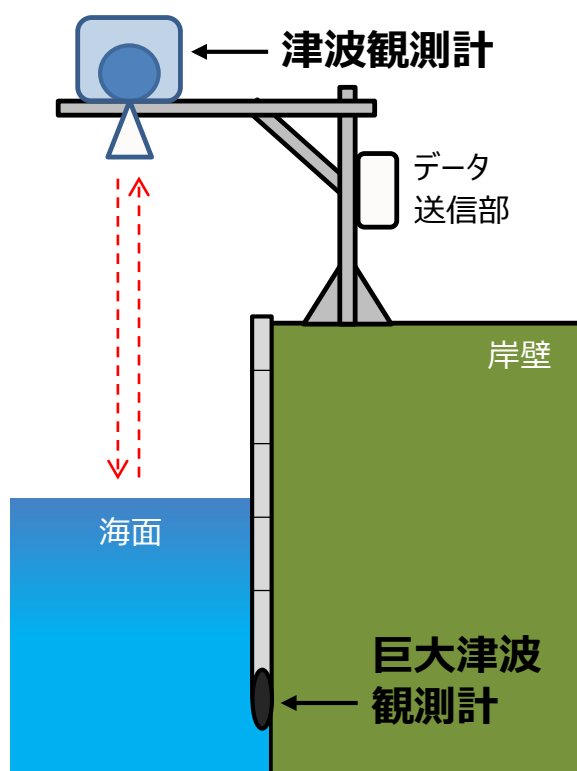
八重山地方には、津波を観測する施設が石垣市の登野城漁港と与那国町の久部良港の2か所にあり、それぞれ「津波観測計」と「巨大津波観測計」の2つの装置が設置されています。

「津波観測計」は、港の岸壁の上に設置して、海側に伸ばしたアーム上のセンサーから海面に発射した電波の反射時間により海面の高さを測定します。ただし、センサーの高さ（標高約4～5m）を超える津波は測定できませんので、その際は巨大津波観測計を利用します。

「巨大津波観測計」は、水圧センサーを海中に設置して水圧の変化により津波の高さを測定します。10mを超える巨大津波でも測定可能で、最大20mの高さまで測定できます。

津波観測計は、津波以外の高潮災害等の監視にも用いられ、普段は潮位の観測に利用しています。この潮位データは気象庁ホームページで公開されていますので、いつでも観測状況を見ることができます。

潮位観測情報



津波観測計の構造図

なお、センサーの直下の海面付近は、観測にとっても重要な場所となりますので、正しいデータが得られるよう、船を停める、遊泳する等がないようご理解・ご協力をお願いします。

防災気象情報は、テレビ・ラジオ・またはホームページから
石垣島地方気象台ホームページ <https://www.data.jma.go.jp/ishigaki/>
※ ホームページは、スマートフォン対応済みです。
お問い合わせ先：石垣島地方気象台 電話番号：0980-82-2159



気象庁マスコット
はれるん